


地域おこし協力隊が行く Vol.16

今月の担当：青空 カント隊員、伊藤 航輝隊員

インスタグラム
更新中です! ⇒




カント隊員【シティプロモーション担当】

『地域を越えて羽幌の魅力を発見！「道の駅まつり in るもい」取材レポート』

10月3日、道の駅るもいにて開催された「道の駅まつり in るもい」を取材・訪問してきました。会場には、留萌管内はもちろんのこと、全国各地の名物道の駅が一堂に会し、会場は大盛況！新米のつかみ取りやイチゴの詰め放題など、各地域が趣向を凝らした体験企画や特産品PRで熱気に包まれていました。



我らが羽幌町の道の駅「ほっと♡はぼろ」もブースを出展し、スタッフの皆さんが笑顔で羽幌の魅力を精力的に届けていました。

そして、せっかくなので、今年7月に道の駅るもいの敷地内にオープンした注目の新施設「アウトドア・アクティビティ拠点施設」も見学。施設内には道内最大級の「モンベル留萌店」や、マリンアクティビティの案内を行う「ビジターセンターるもい」が併設され、広域のアウトドア拠点として大いに賑わっていました。中でもプロモーション視点で特に目を惹いたのが、JAるもい（るもい農業協同組合）プロデュースの直営ショップ「HERMOST（ハーモスト）」です。留萌管内の絶品グルメや特産品が勢ぞろいする店内で、なんと羽幌町・重原商店さんの「タコザンギ」を発見！



早速テイクアウトし一口頬張ると、やわらかくジューシーなタコの食感と、絶妙な濃いめの味が広がり、まさに絶品！「羽幌が誇る食文化は、全道から人が集まる広域拠点でも圧倒的な存在感を放っている」と、胸が熱くなりました。ほかにも、店内にはこだわりのお米と地元の食を楽しめるイートインスペースもあり、ドライブの昼食にもぴったりです。

全国各地の先進的なPR手法や新たな交流拠点を肌で感じたことで、羽幌町の観光や情報発信をさらに進化させる大きなヒントを得ることができました。

【天売高校生徒募集担当】伊藤隊員

「ありがとう」が人をつなぐ～飛騨市研修で学んだこと～

岐阜県飛騨市は人口減少が急速に進む一方で、「関係人口」（地域と継続的に関わる市外の人たち）づくりで全国トップクラスの成果を上げているまちです。中でも印象的だったのが「ヒダスケ！」という仕組みで、祭りの担い手不足や畑の手入れといった地域の困りごとを、市外の人が参加できるプログラムにして参加者を募集します。参加者へのお礼は、地元の野菜や地域通貨などのささやかな「オカエシ」。お金のためではなく、「ありがとう」でつながる関係が特徴で、これまでに延べ6,000人以上が参加しています。講師の飛騨市観光協会・齋藤由宏事務局長は、「外の力だけでは続かない。大切なのは地域の力」と話していました。実際に、一度は廃止が決まった夏の盆踊りが、中学生と民謡保存会の方々の協力で復活しており、今年は来場者が4,000人に増えたそうです。



羽幌町や天売島にも、人手が足りなくなってきた行事や作業があります。それを町外の人や子どもたちが「関われる体験」に変えていけないか。地域の「中」と「外」をつなぐ協力隊として、皆さんと一緒に考え、明るい未来をつくっていきたいと思います。